

「京都の歴史を歩こう！—五条界限編—」 歴史遠足報告

岩田 聖也

1. はじめに

2017年11月26日、京都学・歴彩館寺子屋講座として、歴史遠足「京都の歴史を歩こう！—五条界限編—」が開催された。この遠足は、京都府立大学文学部歴史学科の学科が主体となって運営し、「2つの五条通」をテーマに五条通周辺の歴史を解説した。

以下、当日の流れとそれを踏まえての反省点を述べていきたい。

2. 出発

当日、学生は午前9時に地下鉄烏丸線五条駅に集合し、行程や段取りの最終確認をおこなった。午前9時半頃から北口付近で参加者の受付を開始し、参加者に名札とパンフレット、補足資料を渡した。その後、受付を終えた方から順に学生1人と参加者2人からなるグループを作っていった。今回の遠足では、グループは通行ルートが狭く大人数では危険であるという都合上、あらかじめ先発班と後続班の2班に分けられていた。午前10時頃に参加者全員が集合し終え、学生代表からの挨拶と遠足のテーマ説明がおこなわれ遠足がスタートし、まず受付場所の五条駅・五条通について説明した。説明後先発班が出発し、その10分後に後続班が出発した。

3. 因幡薬師堂

駅から地上へと出た後、東洞院通、不明門通を通り、因幡薬師堂へ向かった。道中、平安京期の条坊制を下地とした秀吉の地割や、その影響を受けた「鰻の寝床」とも称される京都独特の町屋、不明門通の名称の由来を先生や学生の代表が立ち止まって説明した。

因幡薬師堂へ到着すると、薬師堂の由緒や町、高島屋とのかかわりについて学生が解説をおこない、数分の自由時間とした（写真1）。堂内には、高島屋の当主であった飯田新七の名が刻まれた常夜灯が現存しており、学生とグループの参加者は銘文を読んだり、薬師堂へお参りしたりした。

自由時間の後、薬師堂の南門へ集まり、補足の説明を加えて出発した。薬師堂西の参道から烏丸通へ抜け、烏丸通西側の京都銀行本店の土地が、かつて高島屋であったため薬師堂とのかかわりが深いということを説明した。



写真1 因幡薬師堂での解説



写真2 福田金属箔粉工業についての説明

4. 新玉津島神社

烏丸通を西へ渡り、松原通へと入って新玉津島神社へ向かった。新玉津島神社内では、現松原通が、平安京造営時には五条通であったが、豊臣秀吉の開発によって五条橋が現在の位置にかけられたため本来の五条通が松原通となっていったこと、新玉津島神社の由緒などを説明した。新玉津島神社は現在、入り口が北側、本殿の正面が西側を向いているが、かつては境内が広く、入り口が西側を向いていたが天正地割などで社域が縮小してしまったこと、また、境内に生えていた松が松原通の名称の由来となった説があることを述べた。神社内はとても狭かったが、参加者は本殿や松を熱心に拝見していた。

5. 亀山藩邸址・道祖神社

新玉津島神社を出発して、亀山藩邸へと向かった。かつては丹波篠山藩の松平信岑の京屋敷であったが、現在では亀山稲荷となり路地裏に祠があるのみで、説明は藩邸址前の道路脇となった。亀山稲荷の祠の下には江戸時代末期に流行した穴稲荷の形式である空洞があり、参加者は説明後、列になって稲荷内を拝見し、興味深そうに穴を観察していた。

次いで亀山藩邸址西のマンション前のスペースで江戸時代創業の福田金属箔粉工業について説明し、松原通を西行した（写真2）。途中、新町通をわずかに南下したところにある松原道祖神社内で、神社の由緒と松原通と新町通りの交差点の十念ヶ辻について解説した。神社内はとても狭く社内での説明は学生の代表と参加者のみとなったが、十念ヶ辻の交差点では、市中引き回しされた罪人が僧侶に「南無阿弥陀仏」を10度唱えられていたとの説明に、参加者は強い関心を示していた。

6. 五条天神

再度松原通を西行し、五条天神へむかった。道中では、かつて松原商店街が錦市場と並ぶほどの隆盛を誇っていたこと、アーケードの支柱の足のみが現存していることなどを説明した。

五条天神では、薬の神様を祀っており天皇と深くかかわっていたという由緒や、神社内の宝船の古図が日本最古の宝船である説があることを述べた。宝船の図は参加者に分かりやすく

するため、画用紙に古図の拡大コピーを貼り付け解説した。次いで、西洞院通はかつて川が流れており、明治時代に暗渠工事が行われ市電が通され、その市電も昭和期に廃止され現在では市バスが走っていることを説明した。歴彩館の史料内に明治期の暗渠工事と線路敷設の写真が遺っており、同じくコピーを画用紙に貼り付けての説明となった。参加者は写真を熱心に眺め、驚愕の声をあげていた。また、天神を出発し次のスポットである修徳小学校跡地へ向かう道中、西洞院通へ向けて地面がわずかに坂となっていることを目視で確認してもらい西洞院川を体感してもらった。



写真3 修徳公園での解説

7. 修徳小学校跡地

修徳小学校跡地へ至ると、現在では修徳公園として地域の人に開放されているが、修徳小学校として明治2年（1869）に開校し平成4年（1992）の閉校するまで、学区民の教育の場でありながら地域のコミュニティの核であったことや、明治7年（1874）のいなり焼けで開校時の校舎が全焼した際は、旧亀山藩邸三棟を仮校舎として使っていたことなどを解説した（写真3）。また、閉校後も下京図書館や特別養護老人ホームを誘致し、学区民が活動できるスペースを設け、地域住民が創り上げた場所となっていることを述べ、小休止となった。

修徳小学校跡地が説明するスポットとしては最後であったため、小休止ののち、地下鉄五条駅へ向かった。先発班が五条駅へ到着し先にアンケートを行い、10分後の後続班も到着したのちアンケート回答する流れとなった。

以上ですべての行程が終了し、学生代表が挨拶して解散となった。

8. 1年間の準備と歴史遠足を終えて

後日、大学で反省会をおこなった。メンバーはアンケートの意見・感想を読み、事前学習から遠足終了までの問題点、改善点について話し合った。全体的に高評価を得たが、内容の一貫したストーリー性がいまひとつであったことや、運営していた組織の役割の不透明さなど、1年間苦心したことがすべて解決できなかったことを反省点として挙げておきたい。これらは来年度の歴史遠足をより充実したものにするため次年度の担当学生にも伝えていきたい。

今回、歴史遠足の企画・運営を通して、インプットした情報を第三者へアウトプットすることの難しさと楽しさを学ぶことができた。この経験を今後も様々な場面で活かしていきたいと思う。

〈参加学生（当日欠席者を含む）〉

伊藤美梨子・岩田聖也・上野優里・植松紀子・岡田大雄・奥谷慎也・篠原光・鈴木花歩・鈴木更紗・鈴木美命・田埜満留美・富永有貴江・藤澤愛・本島未彩